



第5学年 外国語科 Who is your hero?

目標 自分のことをよく知ってもらうために、日常生活やあこがれの人が得意なことやできることについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、話したりすることができる。



授業者
5年生担任
ALT
中学校英語教諭

単元を描く

教材研究会

授業研究会

本時を描く

講師による 指導・助言

外国語活動および外国語科では、コミュニケーションを図る素地、基礎となる資質・能力を**見方・考え方を働かせ**、言語活動を通して育成することを目標としています。

教材研究会では、児童の思考の流れを想定したうえで内容や表現を高められるよう考えた単元構成をもとに、次の視点で協議しました。

協議の視点
目的・場面・状況に応じて見方・考え方を働かせ、目標を達成することができる単元構想になっているか

「憧れる理由」は、Aさんが納得できるように、内容をもう一工夫できないだろうか。

協議の共有
3時間目で意識が途切れそう...憧れる人と日常生活がうまくつながるよう、ビデオレターでも同じような内容で話してもらうとよい。

話している内容は「Aさんが知っていることか」という視点から考えられるようにすることが必要ではないか。

単元の Re-Design

- 単元ゴールの言語活動とビデオレターの表現を関連付ける。
本単元では「①日常生活②憧れる人③憧れる人は誰かという問いかけ」
- 相手意識をもたせた言語活動をさせる。
本単元では「言語活動が、目的・場面・状況に応じてか何度も確認」
- 表現につながりをもたせ、ゴールの表現の質を高める。
本単元では「I always play volleyball. ⇒ I always play table tennis.」

本時(4/6時)の目標

Aさんに今の自分のことを知ってもらうために、日常生活や憧れる人とその理由について聞き取ったり、話したりすることができる。

導入 ★言語活動における自分の現在地を確認したうえで、JTEとALTのやり取りを聞かせる。
⇒「自分の気持ちを表す表現を加えると、よりうまく伝わること」や「相手の反応や質問を受けて内容や表現、伝え方を工夫すること」に気付かせる。

言語活動★聞き手は、Aさんになったつもりで聞かせたり、JTEが子どもとのやり取りに加わる。
⇒反応や質問をさせ、表現を深める。

中間指導★相手や目的を確認し、友達の発表内容で自分との違いに気付いたことを取り上げ、そのよさを確認する。
★言いたかったけれど言えなかった表現について確認する。
⇒個別の言いたい表現は、ALTに聞きに行かせ、ここで取り上げる表現は汎用的なものにする。

終末★授業の始めと終わりの言語活動を比較してその変容を問い、できるようになったことを確認する。
★どのような学習が自身の変容につながったのかを振り返る。

小筑紫小:本時の工夫点

- ※1 言語活動の積み上げを行うために、どの順序で話題とりあげるか、何時間目から総合的に整理させるかを児童の意識を想定し、考えた。
- ※2 単元ゴールの言語活動を子供の姿で設定し、そこに向かって単位時間ごとの表現も具体的にイメージした。
- ※3 形成的評価を行いながら、各観点ごとの総括評価を何時間目のどの活動で行うかを考えた。

講師
文部科学省
初等中等教育局
直山 木綿子 視学官



5年生のこの時期で、よく話せる子供たち! 声にハリがあり、学習規律のある素直で前向きな学級で「勉強するぞ!」と伝わってきました。聞き手も繰り返しや反応、とっさの質問ができ、よく鍛えられています。母語である日本語を単語でなく、文章でしっかり話せていることから**全教科、全学年**でしっかり学ばせていることが分かります。

- ★意図した中間指導が効果的に働き、子供たちは、「自分の気持ちを入れること」「聞き手に質問をしながら対話」ができるようになっていきました。
- ★以下の表現例をもとに、課題点と指導のポイントをお話いただきました。

My name is ~. I always read comics.
I like games. I like books. What do you like?
My hero is ○○. He is cool and cute.
He (His) birthday is □□.

Point 3 伝える相手の状況を踏まえた表現

My hero is ~.
He is good at running.
He can run fast.
+
I want to run fast.

得意なことやできることだけでは、なぜヒーローなのか、伝わりにくい。自分との関わりについて加えさせる必要がある。Aさんからのビデオレターにもそのことが加っていれば子供の気付きをひき出すことができる。



単元ゴールの言語活動
アメリカに住んでいてしばらく会っていないAさんに今の自分のことを知ってもらうために、日常生活や憧れる人について紹介する。

単元計画

	1 見通し	2	3	4	5	6 ゴール
話題	憧れる人	憧れている理由	日常生活	憧れる人	憧れている理由	日常生活
表現	Who is your hero? My hero is ~.	Why? She can ~. She is good at ~.	I always (usually, sometimes, never) ~.			Hello. I'm ○○. I like sports. I always play volleyball. This is my hero. Do you know her? My hero is Ito Miwa. She can play table tennis well. She is good at serving. She is cool!
評価						総括的評価 「話すこと[発表]」<知技> (行動観察・振り返りシート) 「話すこと[発表]」<主> (思考表) (行動観察・振り返りシート)

単元づくりの工夫

- ※1 言語活動の積み上げを行うために、どの順序で話題とりあげるか、何時間目から総合的に整理させるかを児童の意識を想定し、考えた。
- ※2 単元ゴールの言語活動を子供の姿で設定し、そこに向かって単位時間ごとの表現も具体的にイメージした。
- ※3 形成的評価を行いながら、各観点ごとの総括評価を何時間目のどの活動で行うかを考えた。

見方・考え方を引き出す指導

Point 1 <内容>

中間指導では、目的・場面・状況に応じた**内容**になっているか考えさせていくことが大切。今回は、

相手の状況=「久しぶりに会う」
「日本のことを十分に知らない」

ことに焦点を当てて考えさせる必要があった。自分が伝えたい内容をどんどん増やしていくのではなく、なぜ、その表現を加えたらいいのかを考えることが大切。そうすることで、聞き手に配慮した内容や表現へと変容させていくことができる。

Point 2 <伝え方>

少人数の学級は、お互いのことを十分に知っている関係性。一方的に相手意識なく話したとしても何を言おうとしているか理解できるため、聞き手にとって「Pardon?」や「Slowly please.」など、**伝え方**に関する気付きを促す指導が必要であった。

改善策

- ◆Aさんのビデオレターを聞き取れなかったのはなぜか、どのような伝え方が大切かを考えさせる。
- ◆デモンストレーションで、ALTが一気にスピーディーに話したことに對して、「One more please.」や「Slowly please.」を返し、気付かせる。
- ◆ICTを活用し、遠隔地(似た規模)の学校とつなげて活動をし、いつもと違う知らない相手とやり取りする。

「1人1台端末」の活用について

小筑紫小の活用方法

- *スライドにYチャートを人数分貼り付けておく。
- *カテゴリーごとに伝えたい内容を書き込み(日本語)、マッピングとして活用させる。
- *言えるようになったら、付箋の色を変えさせる。



初等教育資料(東洋館出版社)
'22年1月号に掲載されています!!



直山視学官から伝える内容を毎時間色分けし、自己の変容を自覚させるという活用方法も教えて頂きました。